



私の名前は本谷 佑奈（もとたに ゆな）
今年の春に結婚して、
幸せな結婚生活を過ごしている

…はずだったのですが



3ヶ月前夫が海外出張に出向してしまい、
せっかく引っ越した広い部屋に
私一人で住んでいます。

「ドンドン」

（あら、隣の空き部屋が騒がしい…
誰か引っ越してくるのかしら）

「初めましてッ！」

隣に引っ越してきましたッ！

大学一年の屋久島 やくしま 大河 たいが ですッ！」

「ど…どうも。」

最近の子って背高あゝ
筋肉すごっ！



「何か運動されてるのかしら？」

「うっす！ラグビーやってます！」

「そうなの〜」

久しぶりの
若い子との会話に、
いつにもなく
気分が高揚してしまった

「…おっと」

「どうしたの？体調でも悪い？」

大河君が急に腰を引き、
前屈みになった。

「いや、大丈夫っす、

まだ引越しの荷物の整理残ってるんで、
そろそろおいとましますッ！」

「え、…ええ頑張ってるね。」

「あゝ」

彼の様子がおかしくなった原因がわかってしまった。

「あそこが大きくなってる…」



(私でそういう風になっちゃたのかしら…)

(…)

(だめよ、私にはあの人がいるのに!)



その時私は気づいていなかった

たわいもない会話を続けている最中、
私の体は久しぶりの優秀なオスの匂いに
反応していたことを：

トクン♡



「はあ…」

あの子の
大きかったなあ…



「んっ…」

何だか身体が火照ってる…
身体が…切ない…



だめ…我慢出来ない…

「どうしてこんなに疼くのお」



「はっ、はふえッ…♡」

き、気持ちいい…ッ♡
手が止まらない!？

「だ、だめこんなの
やめないとお…♡」



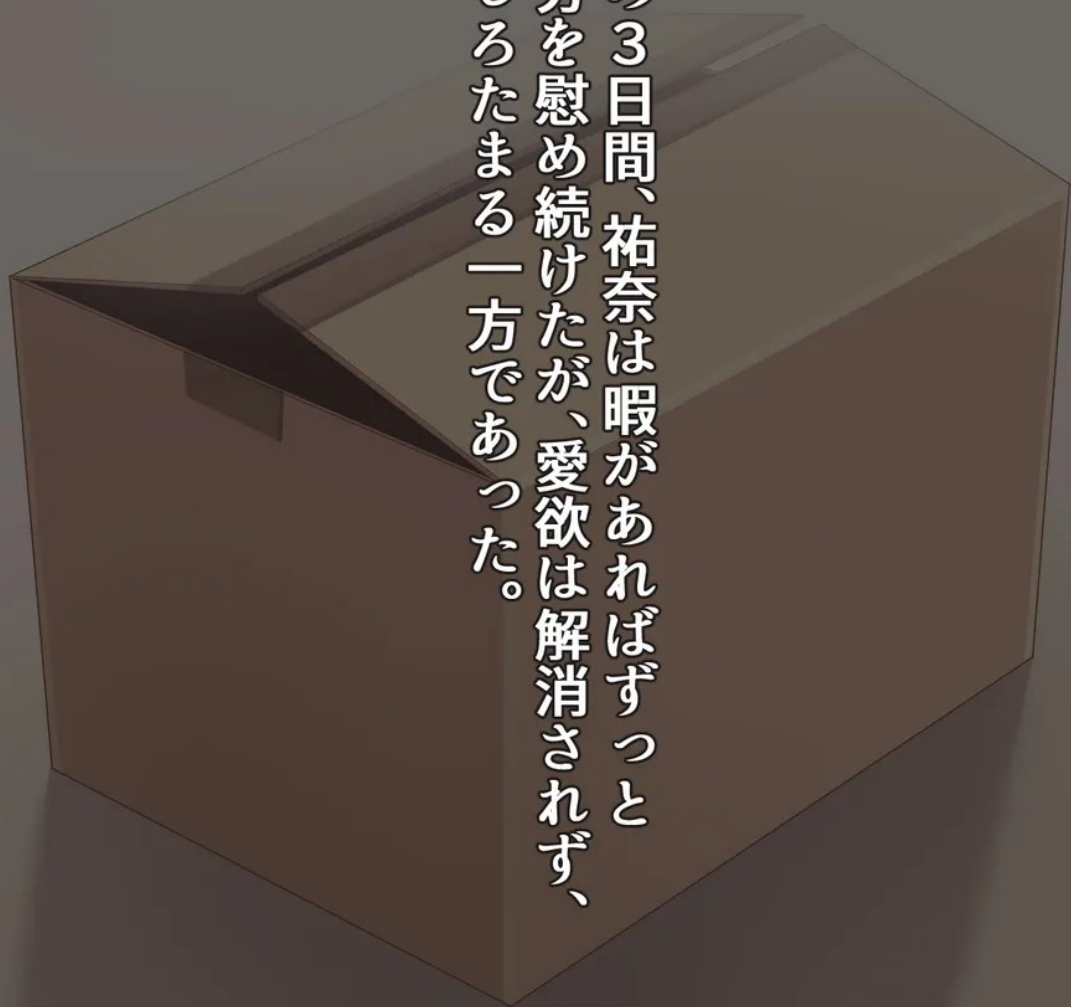


「んっ…あっ…あ♡」



「へん... あー!」

この3日間、祐奈は暇があればずっと
自分を慰め続けたが、愛欲は解消されず、
むしろたまる一方であった。



どうしよう、買っちゃた…
オナニーグッツ



でもこの疼きを鎮めるためだもの、
必要経費よね…



私、遂にこんなものを
使ってしまうのね…

若い子に劣情して、
なんて情けない…

でも、あの人を
裏切らない為だもの
仕方ない、仕方ないの…





うそッ♡服の上からでも、
振動がこんなに伝わるなんて…

おーッッ

お/き

一番小さなオモチヤだからって、
甘く見ていたわ

はぁ...はぁ...♡♡

くっ

肌に直接あてるのは怖いから、
まずは下着の上から...







軽イキしちゃったあ、
こ、これ気持ちいいよお…

あ
あ
あ

1/2

ぬ、脱いじゃった…

下着の上からでもあんなに気持ち
良かったのに、

このままクリに当てて振動させたら
どうなっちゃうのかしら…





こ、これ、強すぎ…
おまんこ変になっちゃうう♡

あ♡あ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡

ビーン



入り口に当てても
しゅごいよお：♡

あゝ♡

あゝ♡
あゝ♡



「はあ…はあ…」

まさかこんなに
気持ちいいなんて

これ以上使ったら
おかしくなっちゃう…

オモチャを使うのは
これっきりにしないと…



—翌日—

（出す燃えるゴミの量が
こんなに少ないなんて、
あの人と一緒に暮らす前の
一人暮らしの時以来ね！）





「佑奈さん！おはようございます！」

後ろから突然、大河が声を掛ける

「大河君：：！？お、おはよう」

（うう：：流石に気まずいわね：：）



「すみません、燃えるゴミって
どう置いとけばいいんですか？」

「ああ、この蓋を開けて、
奥の方から置いていくのよ」

「はい！こっちつすね…」



（大河君の髪の毛が、
私の乳首にあたってる、
早朝でブラジャーを
着けてないからよけいに…）

「い、いいえ、な、何でもないのよ」
「佑奈さん？ どうしました？」



『さわッ』

「ひゃあっ♡」



「ええ、わからないことがあったら
何でも聞いてね」

「今日はありがとうっざいました!」



ふう…あれから
乳首の勃起が全然収まらない

「こんなこと
いままでもなかったのに…」





敏感になりすぎてゐる...
撫でてゐるだけなのに

う ああ

スリ スリ

スリ スリ







お、おっぱいでこんなに……
気持ちよくなるなんて

ふあー
♡

もぎゅ

「う、うう…♡」
このローターを使ったら、きっと…

仕方ないわよ、あの人を裏切らない
為なんだから…



あうっ...♡♡♡

乳首から
甘い振動が体中に...♡

やっ

ここんなの耐えられ...





まだ全然うずきが収まらない…

あれ、使っちゃおうかしら…



「まずは、ローションを
垂らして、と…」

「ん♡思ったよりも冷たいわね…」

ぴゅ

トロ～

ゆりゅ♡



「ん、しょ」
「これで合ってるわよね…」

「じゃ、じゃあ
スイツチをいれるわよ…」





なんて、なんて
優しい快樂...

ちくびコロコロ
舐め回されて、
力が抜けていく...♡



イクっ、いっちやうっ、
甘い絶頂きちやうっ♡

こ、これっ気持ちいい…
優しすぎるわよ♡



思えば、
この時にやめておけばよかった...

この日を境に私の肉欲に
歯止めがかからなくなった





「ふっ…♡」

まずはよくならして…



これでホントに
気持ちよくなれるのかしら

はぁ

はぁ

「ここに付けばいいのよね…」

ぴと...



ひゃあ

しんぞう

おまんこに揺れが響いて
微かにきもちいい...

でも、それ以上に...

ッ

!!





「だめ…」

変なイキかたしっちゃったから
全然疼きが収まらない…



こ...これを使うしか、
ないわよね...

ズッ!!



あ、♡

え！？なにこれ...

す、吸い付いてくる
あっこれ、だめかも...



まって
おまんこビクビクしてきたっ

ビク

あっ

あっ

クリ吸いすっごい...
離れてくれないっ

ビク

ビク

ビク

ビク



「あゝ無理無理無理い
負けるっ♡おまんこ負けちゃう♡」

「無理い♡ まけるっ、やだぐれえ♡」

あゝ♡ あゝ♡

あゝ♡

いっ♡ いっ♡

いっ♡ いっ♡

しゃああ♡

30
分後…

30
しかあぁ♡

